Saitama University 埼玉大学 × atré URAWA

U LaLa Report No.2

うららレポート

U La La Report について 埼玉大学の学生が授業の一環として『地域の魅力づくり』の課題発見とその解決策をフィールドワークを通じて模索し、成果を発表していきます。

「スポーツ」でつながる街、浦和

浦和という街は、歴史的にもサッカーを主にプロスポーツが盛んな印象を抱かれることが多いですが、地域の中でスポーツはどの様な役割を担っているでしょうか。今回は、スポーツによって人々が結び付く浦和の街についてレポートします。

Future 子どもから高齢者まで、全ての世代にスポーツを ～NPO法人 浦和スポーツクラブ～

浦和といえばプロスポーツのイメージが強いですが、実はそれだけではありません。あまり知られていませんが、地域のスポーツクラブや障がい者スポーツ団体など、いろいろなスポーツ団体が盛んに活動しています。そこで今回は、スポーツを通して地域と住民とをつなげる活動をしている団体を紹介します。

春休みに『親子サッカー』で交流する子どもとお母さん。
子どもと同じ目線でスポーツをすると、色々と気づくことがあるようです。

NPO法人『浦和スポーツクラブ』(通称『浦スポ』)は、「老若男女誰でも気軽にスポーツを楽しめ、笑顔と会話があふれるまち」を目標に、サッカー・テニス・フィットネス・卓球の4種目で活動しています。週末に開かれる『星空スポーツ広場』では、地域のスポーツ愛好家や指導者の方々と共に、初心者から上級者まで誰でも500円以下でスポーツを楽しむことができます。また、『浦スポ』が運営に携わる、毎年初夏に開催されるイベント『きた! Urawaフェスタ』では、運動会・防災講習・フリーマーケットなどを通して、地域の方々が世代を超えて交流する様子が見られました。

『浦スポ』の魅力はなんと言っても、民間のスポーツクラブよりも経済的負担が軽く、気軽に参加しやすいこと。やりたいという気持ちがあればどのスポーツにも年代を気にせずに参加できるのです。実際に参加者の満足度が高く、リピーターも多いのだとか。中には、もともと会員であった方が資格を取り、スタッフとして参加することもあるそうです。このように『浦スポ』は、スポーツを楽しむ機会を提供することで、浦和の街と住民とのつながりを活性化するという大切な役割を果たしているのだと感じました。

「『浦スポ』をもっと多くの人に知って参加してもらいたい」と事務局長の小川貴さんはおっしゃいます。「活動場所の確保が十分にできないなど色々と課題もありますが、世代間の交流をさらに促して行きたいと思っています」という事でした。

『きた！Urawaフェスタ』で行われた運動会での綱引き。
世代を超えて一致団結！

スポーツの秋、皆さんも『浦和スポーツクラブ』で体を動かしてみませんか?

NPO法人 浦和スポーツクラブ
問048-887-7140 住さいたま市浦和区領家4-5-6 石塚ビル2F
[URL] http://urawasc.org/

People 「留学生」と地域の架け橋～埼大ワールドカップ

『埼大ワールドカップ』は、日本での企業就職を目指す留学生のために、フットサルを通じて企業との交流の場を設けている埼玉大学内のサークルです。様々な企業と連携し、大会や懇親会を開くことで留学生が日本で働けるきっかけ作りをしています。

「企業と交流する機会がない」。そんな留学生の声を言葉の壁を超えてサポートしている姿を取材してきました。

今回は、実行委員として運営に携わっている経済学部2年の大里隆弥さんにお話を伺いました。

Q.どんな時にやりがいを感じますか?

「私たちは留学生の方と一緒に企業訪問活動もしています。そこで改めてその企業に就職したいと考える留学生も多いんですよ。実際に留学生の就職が決まったときは、自分たちが架け橋になれたんだ!と強く感じます」

Q.この企画における「スポーツ」とはどんなものですか?

「ここではフットサルというスポーツが『言葉の壁』を取り払ってくれていると思います。共通語がなくても身振り手振りや動きでコミュニケーションは取れるんだと実感しました」

インタビューの間、とても楽しそうに話されていたのが印象的でした。次の大会にはボランティアとして参加してみたいです!

埼大ワールドカップ
住埼玉県さいたま市桜区下大久保225（埼玉大学内）
[URL] http://saidaiworldcup.spo-sta.com/

5月大会で参加企業と留学生が、試合終了後握手している様子

People みんなで楽しめる！ 障がい者スポーツ

浦和区にある『埼玉県障害者交流センター』をご存知でしょうか? 車椅子ダンスや、目が不自由な人が行うグランドベースボールなど、多くのスポーツサークルがあります。また、地元の子どもたちに向けた総合学習の支援も行っています。

交流センターでスポーツ指導を行っている白石三重子先生は、「障がい者スポーツは障がいがある人だけのものではなく、誰がやっても楽しめるものです。障がいの有無に関係なく、集まった人の笑顔で交流が生まれます。その結果、地域間の連携も生まれ、社会の活性化に繋がると思います」と話してくださいました。

白石先生は、埼玉大学でも学生に障がい者スポーツを教えています。先生の授業を受けている学生は、「今まで、障がい者スポーツはどんなものなのか、よく知りませんでした。でも先生の授業を受けて、誰でも楽しめるものだとわかりました。とても楽しく体を動かしています」と話してくれました。授業では学生たちが、車椅子に乗って行うバスケットボールや、風船を使ったバドミントンなどを楽しんでいます。

埼玉大学での風船バドミントンの授業の様子。全員でわいわいプレーしました！

誰もが楽しめる障がい者スポーツ。さいたま市でも障がい者スポーツを通じて人々の交流の輪が段々と広がってきています。

社会福祉法人埼玉県社会福祉事業団 埼玉県障害者交流センター
問0048-834-2222（総合受付）
住埼玉県さいたま市浦和区大原3-10-1
JRさいたま新都心駅から無料送迎バスが出ています
[URL] http://www.kouryu.net/

編集後記 結び付きが作る社会

取材を通して、私たちの住む街・浦和では、様々な世代や立場の人々と地域が、スポーツによって密接に結びついていることが分かりました。このような地域の結び付きこそが、人的な交流を活発にさせ、人々がつながり、支え合い、助け合う社会を形成する上で重要であることに気が付きました。今後、ぜひ私たち自身もこのような地域の活動により積極的に参加していきたいです。今回は、記事の企画から取材先の選定、取材交渉、原稿の執筆まで、自らが媒体となって、何かを発信するというこの貴重な経験を、授業を通して実際に経験する事ができてとても有意義でした。

教養学部4年	教養学部1年	教養学部3年	担当教授
上村 真由	池田 菜々美	千葉 敦仁	石阪 督規
教育学部1年	教養学部3年	教育学部1年	
中村 有里	市川 実和	根橋 舞夏	

東京オリンピック・パラリンピックを3年後に控え、首都圏では、スポーツを通じたさまざまな交流・イベントが行われるようになってきました。さいたま市でも、各地でスポーツを通じた「人の輪」が生まれつつあるようです。取材を通して、学生たちも、世代や言語を超えた「世界共通の文化」としてのスポーツの意義や大切さを学ぶことができました。スポーツの秋に、あらためて自身のライフスタイルを見つめ直すきっかけとなった今回の「うららレポート」。取材にご協力いただいたみなさまに、あらためて御礼申し上げます。

埼玉大学教授 石阪督規